

参加型都市環境管理における制度的社会関係資本の役割

— 中部ベトナム、ダナン市の事例から —

菱田 のぞみ

キーワード：参加型環境マネジメント、市民参加、市民組織、都市環境問題、社会関係資本、制度的社会関係資本

1. 研究の目的と背景

本研究は都市部での参加型環境管理における社会関係資本の応用可能性とその手法について言及したものである。事例研究として、ベトナム中部ダナン市で実施されている環境学習プロジェクトを取り上げ、参加型環境管理と社会関係資本の相互影響を考察した。研究の背景として、今日、環境管理においても参加型アプローチの必要性が強く叫ばれ、成功要因の一つとして社会関係資本に対する注目が高まっていることが挙げられる。

2. 参加型環境管理と社会関係資本

参加型アプローチは主に開発、環境管理の分野で実施されてきた。しかし各事例の成功・不成功を分ける要因、成功のための戦略・手法についての分析は十分な蓄積がない。近年、参加型環境管理に求められる市民参加と官民連携に関わるものとして、社会関係資本が注目されている。本研究では、特に組織や制度に基づいた、関係者間に連関をもたらす社会関係資本を制度的社会関係資本と定義する。ダナン市の事例では、制度的社会関係資本は比較的調整可能であり、参加型環境管理においても応用可能性が高いといえる。適切な制度的社会関係資本の構築は地域の社会関係資本を蓄積し、結果として参加型環境管理に寄与している。

3. 市民組織の役割、ダナン市環境学習プロジェクトにおける考察

ダナン市では生活排水による水質汚染が深刻化、市民生活への悪影響が懸念されている。これらの問題を解決することを目的として、2006年7月から参加型環境学習プロジェクトを実施し、活動実施機関として住民組織（Environmental Protection Committee、以下EPC）を設置した。EPCは住民代表、区役員を中心に現地小学校教員、ダナン市環境局職員で共同運営され、地域で環境学習・活動を展開している。EPCの性質を制度的社会関係資本と仮定し、EPC活動と社会関係資本の関係を質問票調査から分析した結果、EPCの活動が地域の社会関係資本の相関があることが確認された。このことからEPCが近隣住人とのつながり、行政に対する信頼感、地域運営への参加度の向上等、社会関係資本の涵養、蓄積を促進していることが確認された。

4. 結論

参加型環境管理、社会関係資本に関する先行研究と本研究における事例研究の考察から、適切な制度的社会関係資本構築は、参加型環境管理において成功要因のひとつと考えられる。制度的社会関係資本は、関係者間の社会関係資本を強化し、より全体的な市民参加と官民連携を促進する。長期間の参加型環境管理の実施においてこのサイクルを繰り返すことにより、参加型環境管理の成功と持続性に寄与するといえる。このような働きは、社会構造が複雑で全体的な市民参加が困難な都市部において、有意義である。しかし、各事例によって背景、条件が異なる参加型環境管理において、望ましい制度的社会関係資本の雛形はない。この概念の実際の事例へ適用する場合、各事例の背景、関係者、社会関係資本の考察に基づき、適切な組織、制度の導入が必要となる。